Bulletin of Kansai University of Nursing and Health Sciences. Vol. 10, No. 1, pp.3-8, 2018

特別寄稿

本学における「私立大学研究ブランディング事業」の進捗と今後の展望
―未来予想図の実現に向けて―

The progress and future outlook of our “private university research branding project”
– Moving toward the achievement of a future-oriented viewpoint –

奥津文子

はじめに

私立大学研究ブランディング事業とは、学長のリーダーシップの下、当該大学の全学的な独自色を大きく打ち出し、地域社会の優先課題解決のために研究に取り組む私立大学等に、経常費･設備･施設費を文部科学省が重点的に支援するものである。

平成 28 年度春「私立大学研究ブランディング事業」の存在を知った私たちは、江川学長の指示のもと、教員はもちろん事務職員も共に知恵を出し合い、事業計画を練り上げていった。暑い夏の最中、何度も会議を重ね推敲繰り返し、秋、渾身の「申請書：セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設」を提出したのである。その結果、この事業に手を挙げた私立大学計 198 校の中から、本学はタイプ A「社会展開型」としてみごとに採択された。この知らせに、本学の教職員全員が喜びと希望と意欲に溢れたことは、言うまでもない。

採択から 1 年、「申請書：セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設」に込めた私たち教職員の夢と願いを実現するために、一歩一歩計画を推進してきた。事業計画とその展開の概略･今後の展望について、ここに報告する。

1. 計画の概要

事業計画「セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設」は、行政・市民・支援団体と一体になり、日本遺産淡路島の資源（ヒト・文化・自然）を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設することを目的として展開する。

まず、本計画の基盤として、淡路島にある「セラピー」を発掘・検証すると共に、人的・文化交流を推進し、地域住民の健康増進を図るための活動「セラピー活用支援モデル」を構築する。さらに､「セラピー」資源の商品化により､雇用の創出･地域活性の原動力となり、地域経済の発展に寄与する。また、本事業の研究活動成果をもとにセラピーと看護を融合させた独創性あふれる看護教育カリキュラムを構築し、医療の多様化に連動した質の高い「看護学実習」の場を創設する。

この一連の取り組みが、淡路島全域の保健・医療・福祉を充実させることは言うまでもない。さらに「関西看護医療大学」は、ブランドを体現する「人材」と「セラピー関連情報」の「発信ステーション」となり､セラピーアイランド淡路島の「地域活性の原動力」となる。穏やかな気候に恵まれ、緑豊かな山々と美しい瀬戸内海に囲まれた世界遺産淡路島に立地する「関西看護医療大学」は､「セラピー」をブランドとし､「セラピーのある大学」としてのイメージを定着させることになると考えている。

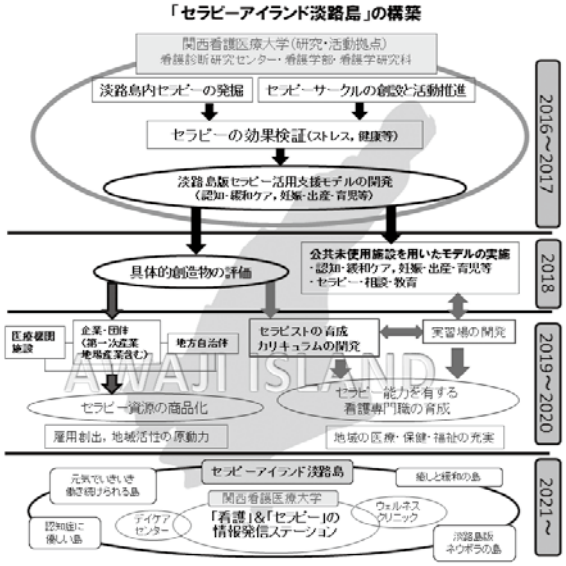

図 1　計画書イメージ図

2. 事業展開：2016 年 採択～ 2017 年度 秋

1）事業展開に関する広報・社会貢献活動とニーズ調査

(1)「春のセラピー」および「親と子のふれあい健康広場」の開催

2017 年 4 月 16 日（日）に国営明石海峡公園ビジター棟で「春のセラピー」を開催した。内容は、「公園の効用」および「落語による笑い体験」「公園散策による癒し体験」。笑いによる免疫力アップに関する講話や落語による笑い体験、春の花であふれる公園散策の機会を提供し、公園散策が自律神経に与える影響を指尖脈波で確認した。

5 月 4 日（木）、10 歳以下の子どもと保護者を対象にした「親と子のふれあい健康広場」を国際

ソロプチミスト淡路（正司昌代会長）と関西看護医療大学の共催で実施した。「淡路ワールドパーク ONOKORO」に親子ら約 300 人が参集。学生たちが育児相談対応やハンドマッサージで保護者らを癒やし、ダンスなどの遊びを提供した。また、健康相談・支援等に関する地域住民のニーズ調査を実施した。

(2)「マイセラピー俳句さくさく淡路島」の開催

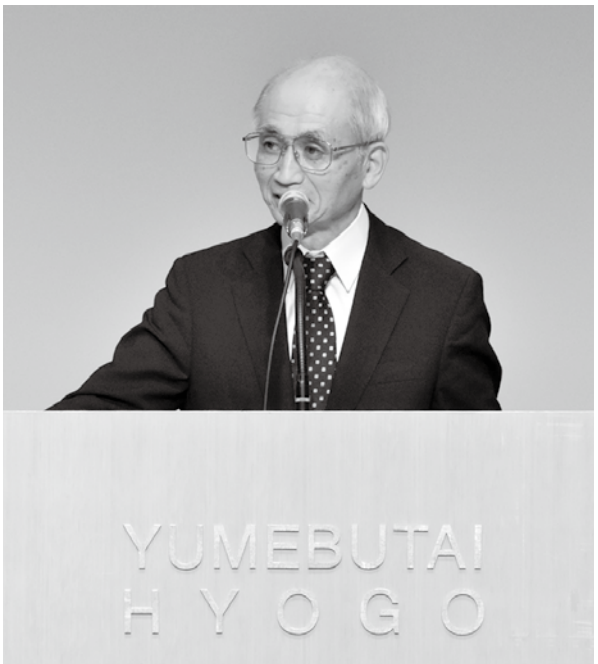

図 2-1　基調講演　鈴木貞夫先生

図 2-2　アロマセラピーのブース

8 月 6 日（日）、夢舞台国際会議場で「マイセラピー俳句さくさく淡路島」を約 150 名の参加者を迎え開催した。基調講演において若葉主宰 鈴木 貞雄 先生が「極楽の文学―俳句―」のテーマの下お話された。午後からは、「笑い療法」「アロマテラピー」「園芸療法」「ウォルドルフ人形作り」の 4 つの体験ブースと「俳句セラピー」「淡路雑俳」「カレンデュラハーブ」「猫と癒し」「ドルフィンセラピー」「人と釣り」「ホーステラピー」「1400 度の世界 伝統と癒し」「竹林浴・森林浴の奨め」の 9 つの展示ブースを準備し、自然や環境を活用したセラピーについて、淡路島から健康や癒しに関する情報を発信した。また、参加者に対して、健康相談･支援等に関するニーズ調査を実施した。

(3) ホームページの開設

2017 年 7 月、ホームページ制作業者を選定し、ホームページの開設準備を開始した。事業内容や事業計画イメージ図、ニュース・トピックスなど掲載内容やデザインに関して、繰り返し検討を行い、11 月にはアップできる予定となった。

(4) ロゴマークの選定

7 月、ロゴマークの公募を開始し、52 件の応募があった。その中から 4 件に絞り込み､ブランディング委員の投票で、1 件が採択された。このロゴマークは、Therapy と Island の「T」と「I」を組み合わせ、手で患部を撫でいたわるような、優しさと癒しをイメージしたものとのことであった。

セラピーアイランド淡路島

図 3　セラピーアイランド淡路島ロゴマーク

2) セラピーサークルの立ち上げと活動

(1) 参加に関する説明書・同意書の作成

セラピーサークル活動の目的・内容・費用・協力内容・退会の自由等に関して、説明書及び同意書（本人用・保護者用）を作成し、倫理員会委員長承認の上教授会で検討し、承認を得た。

(2) 呼びかけとサークル結成

5 月 18 日セラピーサークル説明会において、2017 年度生に説明書に基づきセラピーサークル活動について説明し、参加を呼び掛けた。「笑い」サークルのみ､参加者が得られなかったが､「釣り」「しんりん」「スクーバーダイビング」はサークル参加希望者があった。本人および保護者に同意書

の記入を求め、同意を得た。

(3) 顧問の選任、就任

セラピー活動における「顧問就任に関する覚書」を作成の上、顧問適任者を検討した。顧問就任の依頼を行い、業務委託契約を結んだ。顧問就任者は以下のとおりである。

釣り：松林　真弘（株式会社：夢舞台）

しんりん：宮間　博一（読売情報開発大阪、全国森林レクレーション協会 森林インストラクター）

スクーバーダイビング：伊木　敏和（おのころダイバーズ）

(4) 活動状況

・釣り：5月にサークル紹介と勧誘を兼ね、既存のつりサークルの先輩たちによる昼食会、6月にはつりの体験と親睦を兼ね、海辺でつりとバーベキューを実施した。7月に入り、サークル員の学習のための資料作成、顧問によるサークル活動に必要な備品・物品の購入を行った。8月および10月には3～4回生をまじえたサークル活動を実施し、大学祭でのサークル活動報告の準備を行った。

・しんりん：セラピーサークル説明会において2名の応募があった。7月1日（土）前日の天候悪化と参加人数が1名ということで、場所を淡路石の寝屋緑地から景観園芸学校庭園に変更。野外活動における救急処置の説明と庭園散策を実施した。8月11日（祝）慶野松原の松林で2名のサークル員と顧問、担当教員の計5名で松林における癒し効果、2次元気分尺度測定を実施した。9月28日（木）学内勉強会を開催し、サークル員は6名となった。11月18日（土）に山歩き、癒し効果測定、交流会を実施予定。

・スクーバーダイビング：セラピーサークル説明会において4名の応募があった。4名中1名はCカード取得済み。3名は7月8、22日の2日間でスクーバーダイビングの基礎知識を理解する学習会を行った。基礎知識をもとに、6日間にわたり淡路島で海洋実習を行った。海洋実習前後で癒しの効果について2次元気分尺度を用いて測定を行った。8月12、22日はスクーバーダイビング機材を使用し、セッティング方法やレギュレーターを使っての呼吸方法、水面での練習（BCの脱着、ヘッドファーストでの入水等）。9月23、24日は、水中での練習（フィンワークやマスク、レギュレタークリアー、リカバリー等）。3名のうち2名は10月1日、緊急浮上の技術やファンダイビングの練習等より高度専門的な技術を習得し、1名は10月15日に行う予定である。現在2名Cカード取得申請中、1名は15日以降に申請を行う予定である。

3）淡路島にある「セラピー」の調査・エビデンスの確認

まず、淡路島に既にある「セラピー」を掘り起こし、施設名称・内容・実施場所等を一覧にまとめた。さらに、それぞれのセラピーに関連する研究成果について文献検索し、エビデンスの確認を行っていった。

その結果、エビデンスが明らかにされているものはほとんど見いだせず、今後セラピー効果の検証を積極的かつ早急に行っていかなければならないという、本学の使命・課題が明らかになった。

その一方で、株式会社淡路島パルシェが開発・販売する高品質淡路島産アロマオイルSUUの効果検証や淡路で古くから栽培されてきた淡路島在来種カレンデュラの有効利用など、研究・商品開発へと発展させたい素材が多くあることも明確になり、「セラピーアイランド淡路島」への道程が少しずつ見えてくるような気がした。

4）学内モデル：スペースセンターの開設

(1) 改修計画の検討と工事

淡路島美術大学として使用していた教室（本部棟・ロッカールーム奥）が、セラピー活用支援モデルの学内拠点「スペースセンター」として生まれ変わることになった。改修工事に関して、①多機能型スペースであること、②安全性が確保できること、③「癒し」のコンセプトが生きていること、の3点を大切に検討した。壁紙・ドアの色・床材・窓のサンに至るまで、一つ一つ吟味し、改修計画を練り上げていった。また、高齢者や小児が使用することを踏まえ、トイレスペースを広くし、車いすにも対応できるようにした。

2017年10月改修工事が完了し、明るく暖かい雰囲気の「スペースセンター」が使用可能となった。

(2) 備品・必要物品の購入

スペースセンターの改修工事完了と共に、テーブル・椅子等、備品の選定が行われた。ナチュラルテイストで、使い勝手がよく、安全性の高い製品を志向した。また早速、高齢者に対する「健康体操」、親子（幼児）に対する「クリスマス会」の企画を進めることから、必要な物品の検討を開始した。

(3) 使用計画の検討

スペースセンターが看護学実習施設へと発展することを目指しながら、まずは地域住民の健康増進に資する「まちかど保健室（仮称）」を作り、社会貢献活動をほぼ毎月展開することを計画した。淡路市と連携・協働しながら、高齢者や乳幼児・妊産婦をターゲットに進めていくことを決めた。

スペースセンター使用の際には、サイボウズの施設予約のシステムを活用することが決まった。

図 4-1　スペースセンター　エントランス

図 4-2　スペースセンター　内部

3. 今後の展望

1) 商品化への可能性の検討・商品開発に向けての企業・団体との協働

カレンデュラは古くから皮膚・粘膜の修復、消炎、抗菌・抗ウイルス作用があるハーブとして特に海外で広く活用されてきた歴史がある。咽頭粘膜の消炎・修復に効果が証明できたなら、含嗽剤として商品化できないだろうか。

また、淡路島特産のイチジクも、整腸作用があることが知られている。葉や商品としては適さない傷ついた実を整腸作用のある茶やジュースとして商品化できないか。

淡路島の特産品を利用し、島民の健康を護り癒す商品の開発を、関連企業・団体と共に進めるために、連携・協働の絆を取り結んでいく予定である。

2)「臨地実習の場」の創生にむけた行政との協働

スペースセンターにおいて、コミュニティヘルスナーシングプログラム『まちかど健康ひろば（仮称）』『まちかど保健室（仮称）』を展開し、少子・高齢化の進む淡路地域において、気軽に健康・育児相談、生活支援、子育て支援等ができる「保健室機能」をつくることを企画している。地域住民の健康的な生活の向上に貢献することを目的に、淡路市・社会福祉事務所や地域の自治会等と連携・協力しながら、住民が気軽に健康上の悩み事の相談ができる「まちかど保健室」を運営し、健康なまちづくりに取り組む。

さらには、新たな臨地実習施設として、連携のあり方・プログラムの構築から事業展開の実際まで幅広く学べる「場」の創設を目指す。

3)「香りの島」構想

淡路島産アロマオイル SUU を活用して、学習者の集中力や記憶力を高めることはできないだろうか。すでにエッセンシャルオイル：ローズマリー・シオネールおよびレモンが授業における集中力・記憶力に効果的な影響を及ぼすという研究結果が報告されている。本学において淡路島産アロマオイル SUU を使用した介入研究「エッセンシャルオイル：ローズマリー・シオネールおよびレモンの授業における集中力・記憶力に対する効果」を実施し、その成果を明らかにすることで、まず、本学の日常にアロマセラピーを導入したい。アロマセラピーの効果を本学が示すことで、島内の各学校にも広げていく事ができるのではないかと考える。ここでは、島内三市の教育委員会の協

力を得ながら進めていきたい。

また、リラクゼーション効果の高いアロマオイルを使用することで、高齢者施設に入所しておられる利用者の方々のQOLに資することも可能だろう。睡眠の質を高めることもできるかもしれない。臨地実習でもご指導いただいている社会福祉施設から協力を得、すすめていきたい。

このように本学がアロマセラピーの効果に関する研究成果を示すことで、淡路島は「香りの島」として、名実ともに全国の注目を集めることになると考える。

当然、「スペースセンター」における活動にもアロマセラピーを積極的に導入し、島民に広くアピールするとともに、アロマセラピーを活用した看護介入方法を体験できる機会を学生たちに提供し、新たな看護治療方法を考える未来志向型臨地実習構築への一歩としたい。

4）島外の人々を呼び込む！

今年度８月に実施した「マイセラピー俳句さくさく淡路島」のような「セラピー情報発信」の機会は、今後も継続していく予定である。スペースセンターを活用し、地域住民に対する広報の機会とするだけでなく、島外の人々にも広くセラピー効果をアピールしたい。島外からも参加したくなるような仕掛け作りが必要になろう。これは、ブランディングプロジェクトチームメンバーはもちろん、すべての教職員にアイディアを出してもらいたい部分である。

商品開発も本ブランディング事業の大きな柱である。事業計画では、「セラピー融合型人間ドック」を聖隷淡路病院やウェスティンホテル淡路と連携しながら進めることを考えた。また「豊かなお産」と称して、産前産後ゆったりホテルで過ごしながら、伊弉諾神宮へのお参り等を組み込み、「心に残るリッチなお産」を商品化することも企画した。これらをぜひとも実現する。淡路島ならではの一味違ったエグゼクティブな健康増進活動を展開し、それを全国に示すことで島外の人々を呼び込めると考えている。

おわりに

教職員が一丸となってこのブランディング事業に取り組んできた事で、「夢」にすぎなかった私たちの未来予想図が、少しずつリアルに、現実味を帯びてきている。私たちの歩みは、決して早くはないけれど、教職員一同の強い願いが、「夢」を「現実」へと運んでくれていることを実感する。

未来予想図を現実にするには、これからもきっと山あり谷あり。しかし、関西看護医療大学の私たちなら、きっと未来予想図以上の「現実」をつかみ取ることができると信じている。